

太田川再生方針に基づくシジミを増やす 取組について



(公財) 広島市農林水産振興センター 水産部
広島市内水面漁業協同組合

本日の内容

- 過去の取組と現在の方針について
- 令和4年度の取組について
- 令和4年度
資源状況等調査結果について



過去の取組と現在の方針について

①(過去の取組)構造物によるシジミの食害防止及び母貝団地の造成

被覆網 (H25~H28) 塩ビ管 (H27~R2) 単管ゲージ (R1~R2) 浸透管及び網袋 (R2~R3)



➡ 構造物の埋没、豪雨による構造物の流出等の問題が発生

河川への構造物の設置は、流出リスクが高い等の理由で、継続が困難

過去の取組と現在の方針について

②(過去の取組)岩場への種苗の放流 (R2~R3)



調査結果

放流から9ヶ月(出水期を含む)後でも
55.6%の生残率であった

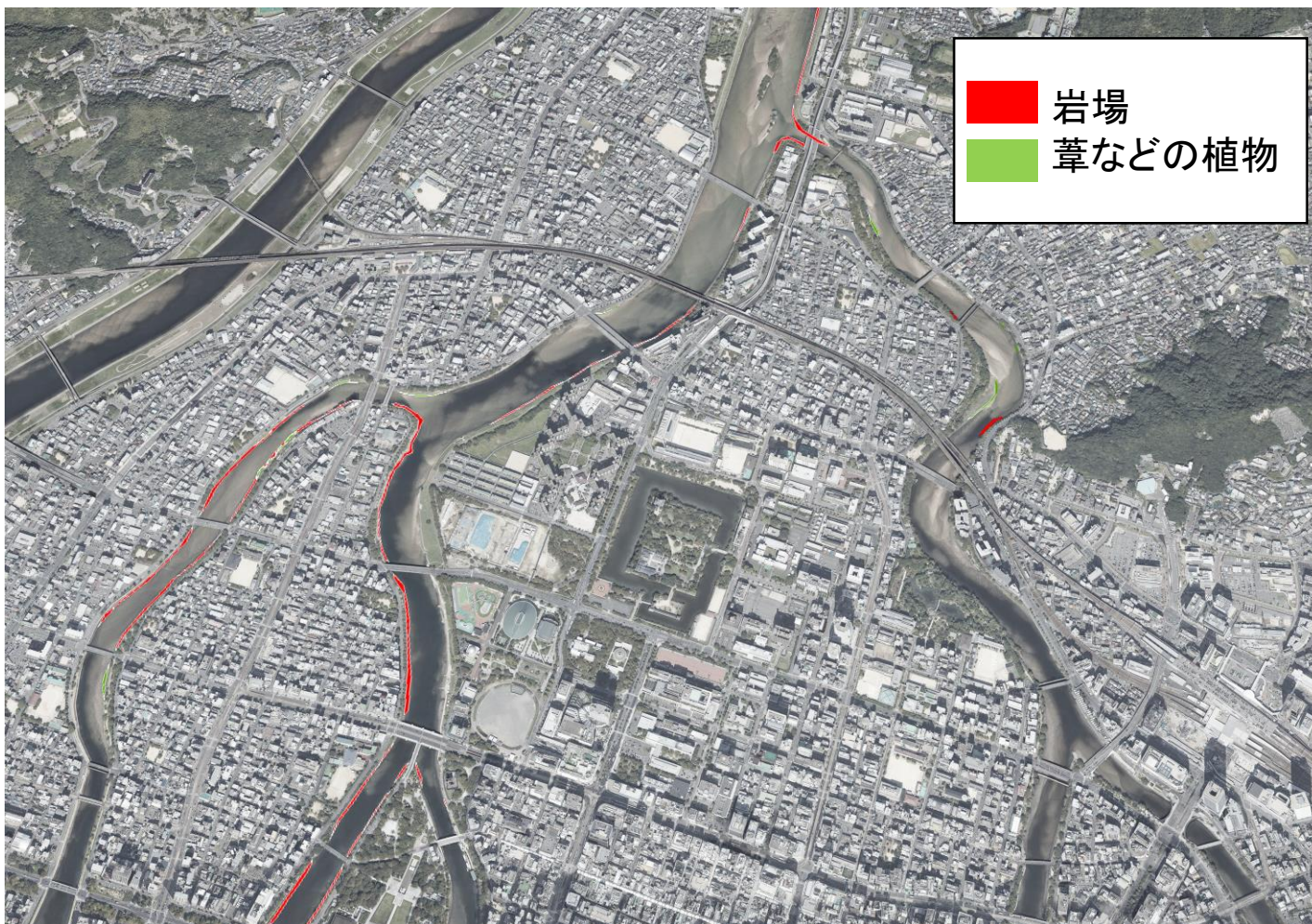
※令和3年度の懇談会で報告（網袋に収容したシジミの調査結果）

現在の方針 (R3~)

出水による流出が少なく、食害を受けにくい場所である
岩場への放流を中心に取組を進める

過去の取組と現在の方針について

③(現在の方針による調査)岩場の場所や面積を把握する調査 (R3)



調査場所	岩場の面積 (㎡)
旧太田川	15,890
京橋川	6,790
天満川	15,140
元安川	430
合計	38,250

※令和3年度の懇談会で報告

令和3年度以降、センターの調査結果を基に、市及び漁協が、宍道湖産種苗を岩場へ放流

令和4年度の取組について

11/21 市及び漁協が宍道湖産種苗の岩場への放流を実施

放流数量：約1,117kg（約45.6万個）

放流種苗：2.45g/個（平均殻長:1.8cm）

放流エリア	種苗数 (個)	放流した岩場 の面積(m ²)	放流密度 (個/m ²)
旧太田川	約 18.2 万	8,946	20 個/m ²
京橋川	約 18.2 万	4,311	42 個/m ²
天満川	約 9.1 万	6,458	14 個/m ²
計・平均	約 45.6 万	19,715	23 個/m ²

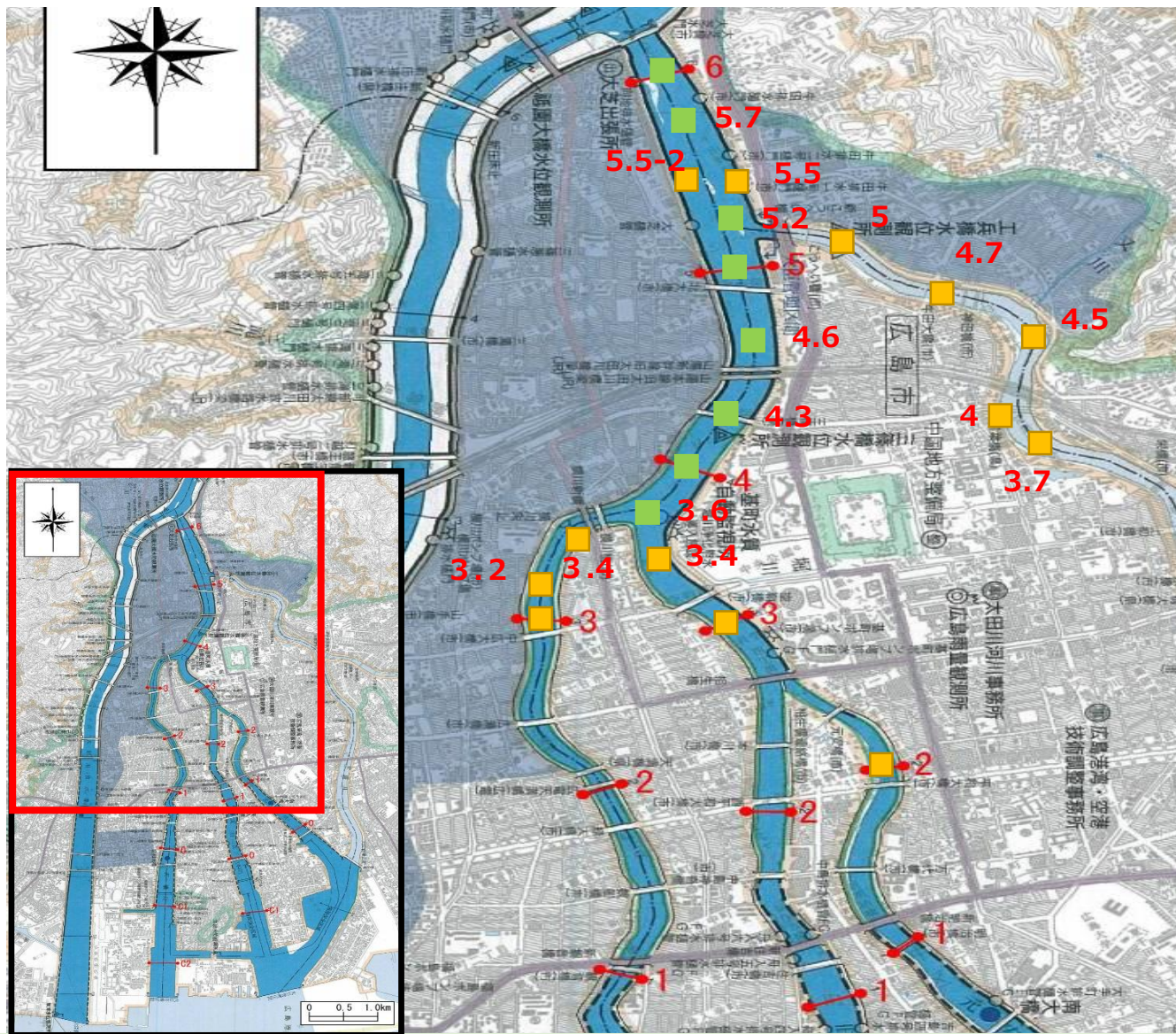
令和4年度 資源状況等調査結果について①

調査方法

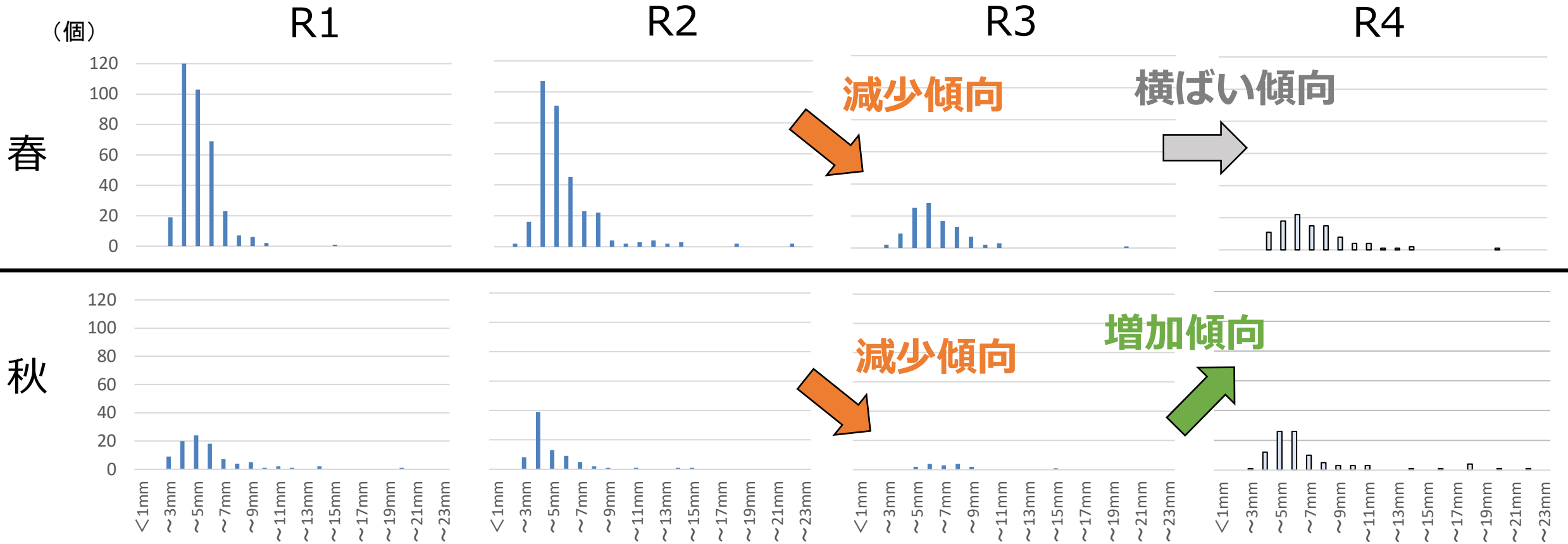
- 頻度 年2回(5月,10月)
- 調査地点 右図(■:両岸 ■:中央)
21地点29ヶ所
- 方法
 - ①採泥した泥を2mmメッシュでふるい、シジミの数量及び殻長等を計測
 - ②水温及び塩分濃度を測定



スミス・マッキンタイヤ採泥器でサンプリング



令和4年度 資源状況等調査結果について②



29地点で採取された全シジミの殻長組成

令和3年は資源量が減少傾向であったが、令和4年秋には増加傾向であった

令和4年度 資源状況等調査結果について③

取組

R2.7月, R3.7月

7月の豪雨で構造物の流出等が発生し、
構造物を用いた母貝団地の造成を中止

R3.11月

岩場への
種苗放流

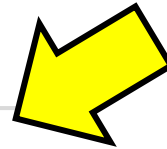
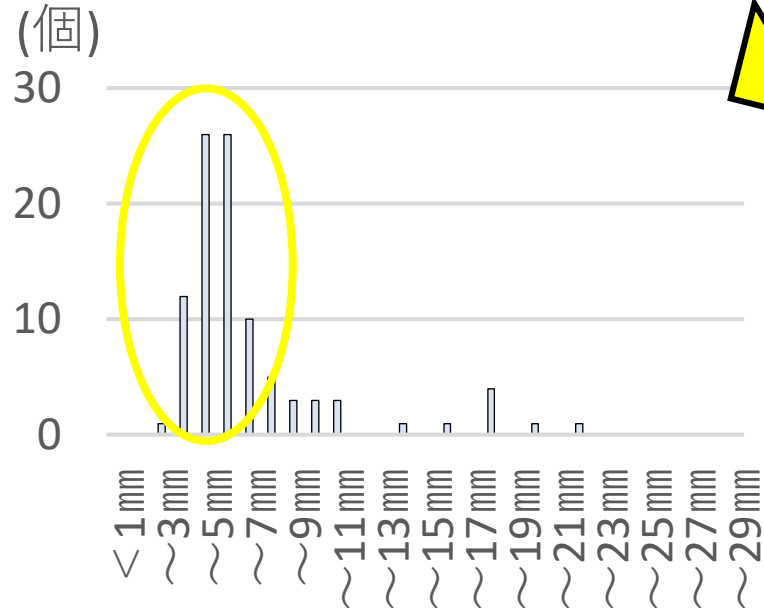


R4.6-8月
産卵

R4.11月

岩場への
種苗放流

令和4年秋
調査結果



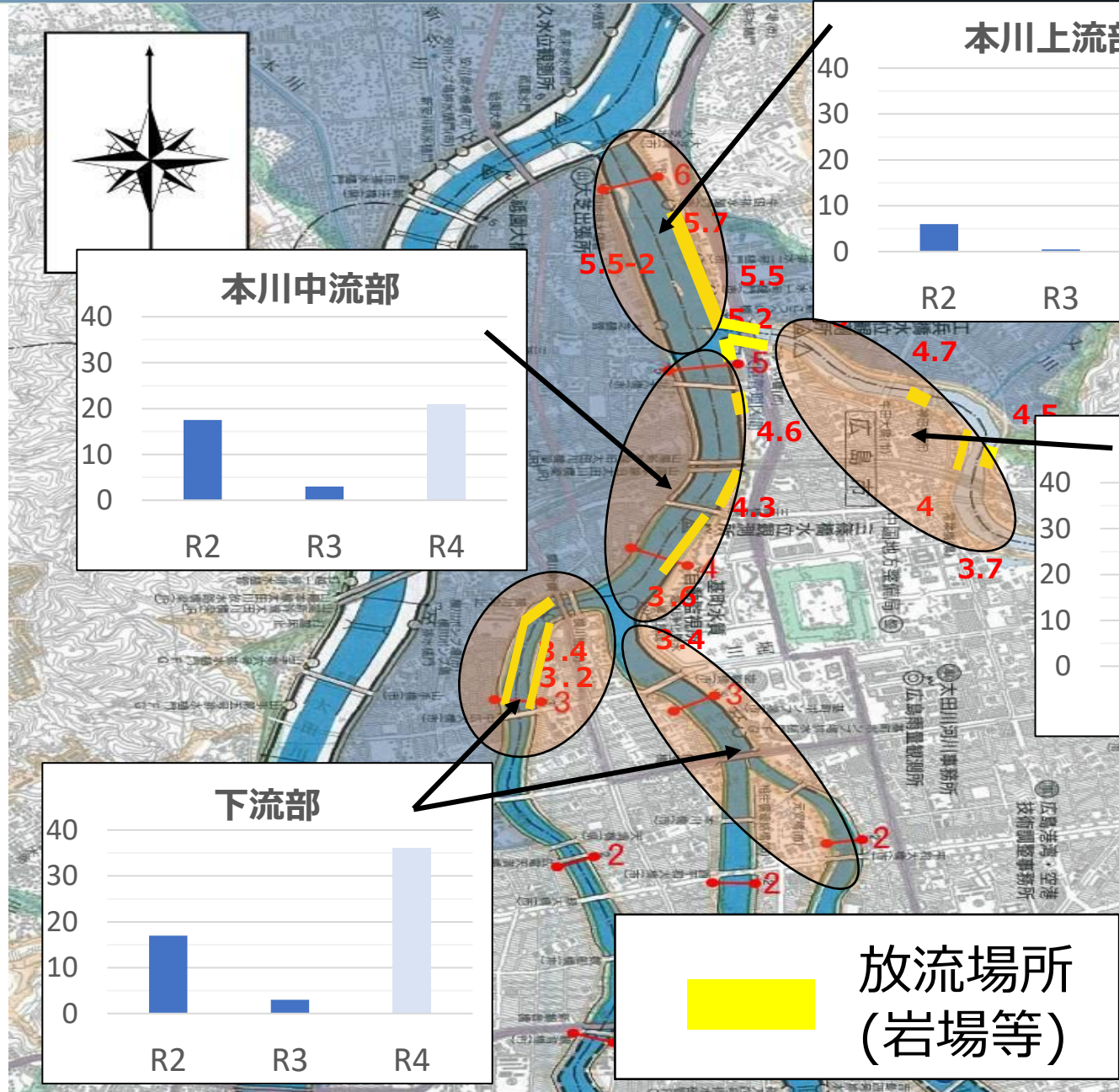
稚貝として着底し
資源加入

令和3年11月に岩場に放流した種苗が、母貝として寄与し、令和4年秋の資源量の増加につながった可能性が示唆された

(参考)

令和2~4年 秋
調査地点別
資源状況等調査結果

令和4年は、
下流部で個体数が多い傾向があった



まとめ

- 現在の方針として、穴道湖産種苗の岩場への放流を中心に、取組を進めている。
- 令和4年秋の資源状況等調査では、前年に確認されなかった小型個体の加入が確認された。
- 今後も引き続き、市及び漁協が岩場への種苗の放流を実施し、センターが資源状況等調査により、効果検証を実施する。